

## 実験的自己免疫性脳脊髄炎(EAE)モデル

多発性硬化症の動物モデルで、マウスに特定のミエリン構成ペプチド: myelin oligodendrocyte glycoprotein (MOG35-55など) をアジュバントとともに接種することによって誘導される。

### 実験方法

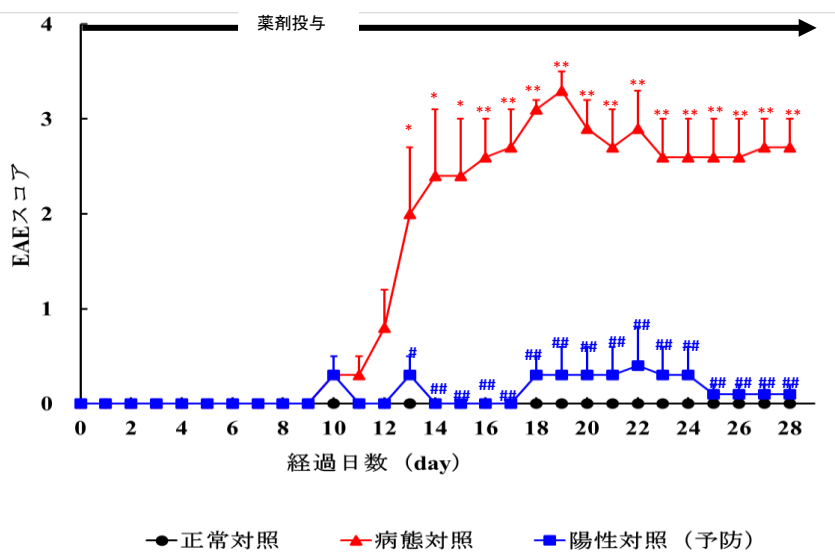
#### 1. モデル作製

抗原エマルジョンを2箇所にて皮下投与。その後、PTX溶液を腹腔内投与する。22~26時間後、同様にPTX溶液を投与。

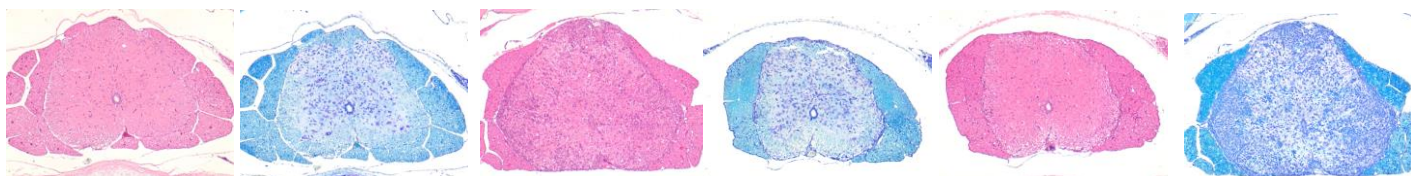
#### 2. 投与

初回PTX投与後、媒体または被験物質を経口投与。投与は1回/日とした。

### 実験結果



スコア	所見
0.0	正常
1.0	尾の脱力あるいは軽度の後肢の脱力
2.0	中度の後肢の脱力あるいは軽度の運動失調
3.0	中度~重度の後肢の脱力
4.0	重度の後肢の脱力、軽度の前肢の脱力あるいは中度の運動失調
5.0	中度の前肢の脱力を伴う後肢の麻痺
6.0	重度の前肢の脱力を伴う後肢の麻痺、重度の運動失調あるいは瀕死



<正常マウス\_著変なし>

<病態マウス\_高度>

<予防マウス\_軽度>